

水稻酒米有望系統「石川酒 68号」の育成

1 背景・目的

石川県での大吟醸酒の醸造には、兵庫県産「山田錦」が主に使用されており、酒造組合連合会からは、石川県育成の大吟醸酒に適したオリジナル品種の育成が求められている。

2 技術のポイント

- (1) 「石川酒 68号」は「山田錦」に比べ出穂期で6日、成熟期で9日早い晩生の酒米である。やや長稈であるものの稈質はやや強く、耐倒伏性は「中」である。酒米としては穂長が短く、穂数が多い中間型の草型である。収量性は「五百万石」よりやや勝る(表1、図1~3)。
- (2) 心白の発現率は低いながらも小型で、形状に優れる線状・点状心白の比率が高く高度の精白が可能である。また、玄米のタンパク質含有率は低い。これらの特徴から、大吟醸の醸造に適している(表1、図1~3)。



図1 稲株

表1 石川酒 68号生育・収量性等

品種・系統	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	精玄米重 (kg/10a)	同左 対標比 (%)	玄米 千重 (g)	心白		玄米 蛋白質 含有率 (%)
									発現率 (%)	点状 線状率 (%)	
石川酒68号	8/08	9/21	93	20.2	467	532	102	26.5	41.1	23.9	6.3
標)五百万石	7/21	8/29	83	22.0	318	519	100	26.0	72.8	6.5	7.5
比)山田錦	8/14	9/30	105	21.2	367	472	91	27.1	73.4	23.4	7.6

注) 平成26~27年系統生産力検定、平成28~29年奨励品種決定基本調査の平均値

玄米蛋白質含有率は乾物あたりの数値、玄米外観品質は1(上の上)~9(下の下)の連続調査



図2 穂

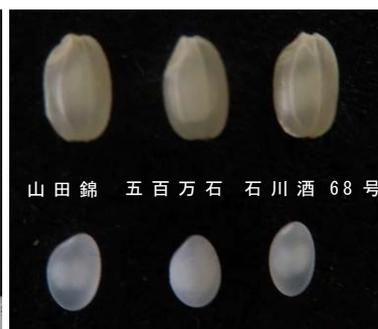


図3 玄米(上)と50%精米(下)

3 成果の活用と留意点

- (1) 平成29年3月種苗登録申請済。
- (2) 平成30年度に県下3ヶ所を実証栽培を行い、普及性を検討する。

問合せ先：育種グループ TEL 076-257-6911
担当者：中村啓二・猪野雅哉・水内友美子